



TPP Q&A 中級編

Q 貿易自由化は格差をもたらすのでは？

A 解答

**貿易自由化は常にメリットがデメリットを上回ります。
デメリットへの手当てをして、日本の経済成長につなげましょう。**

- 貿易自由化は、輸出産業にとっては輸出拡大、国民全体にとっては価格低下や商品選択の拡大などの広範なメリットをもたらします。その一方で、一部の産業においてデメリットが発生することがあります。
- 消費者のメリットは薄く広くいきわたるので、あまり実感がありませんが、デメリットは特定の産業に集中するので、どうしても反対の声が大きくなりがちです。
- しかし、貿易を自由化すると、国全体ではメリットがデメリットを上回ります。大切なことは、デメリットを受ける部分に、きちんとした手当てをすることです。
- 格差をもたらすのは貿易自由化ではなく、国内の所得の再配分の問題なのです。

☆「本当にメリットの方が大きいのか？」と思ったあなたはこちら

EPAに関する各種試算（国家戦略室HP）：

<http://www.npu.go.jp/policy/policy08/pdf/20101027/siryou2.pdf>



TPP Q&A 中級編

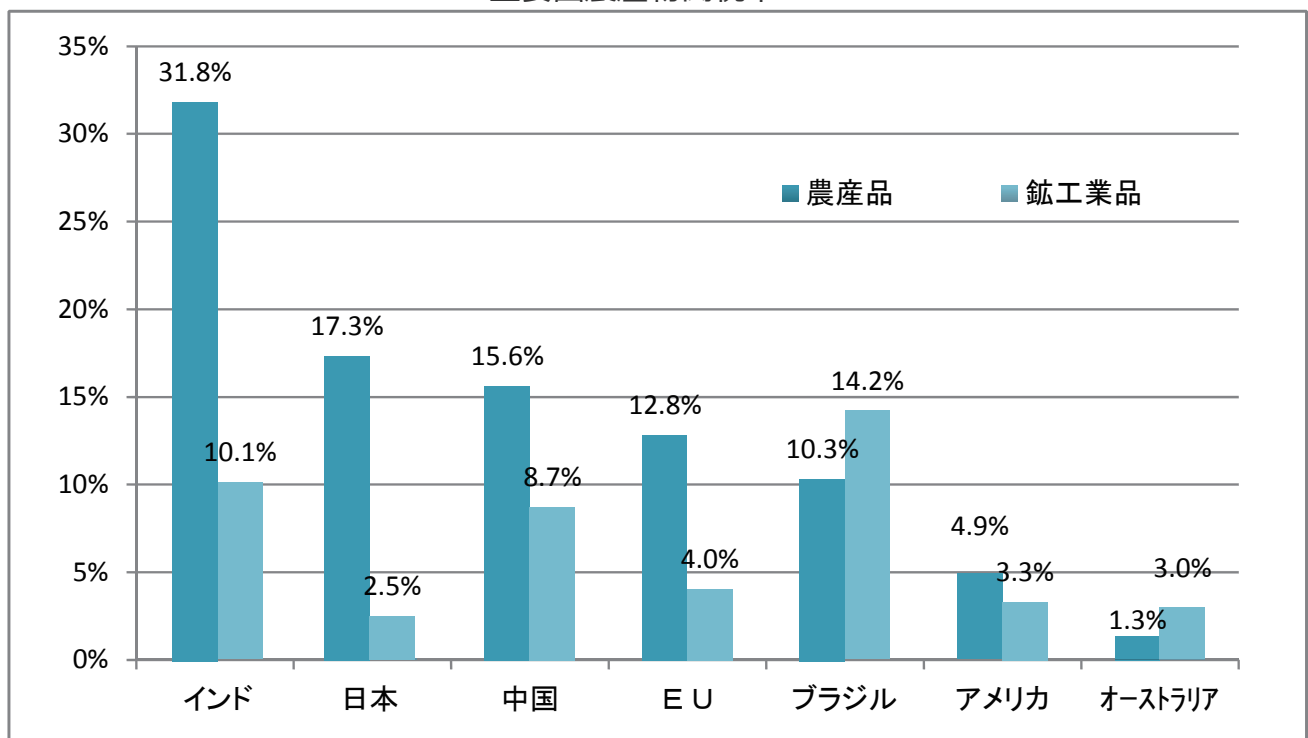
Q 日本は世界で一番自由化しているのでは？

A 解答

工業品の関税は低いですが、農産品は高くなっています。

- 日本の関税率は低いと言われていますが、それは工業品の話。農産品は、先進国・新興国と比べても、まだ高い水準です。

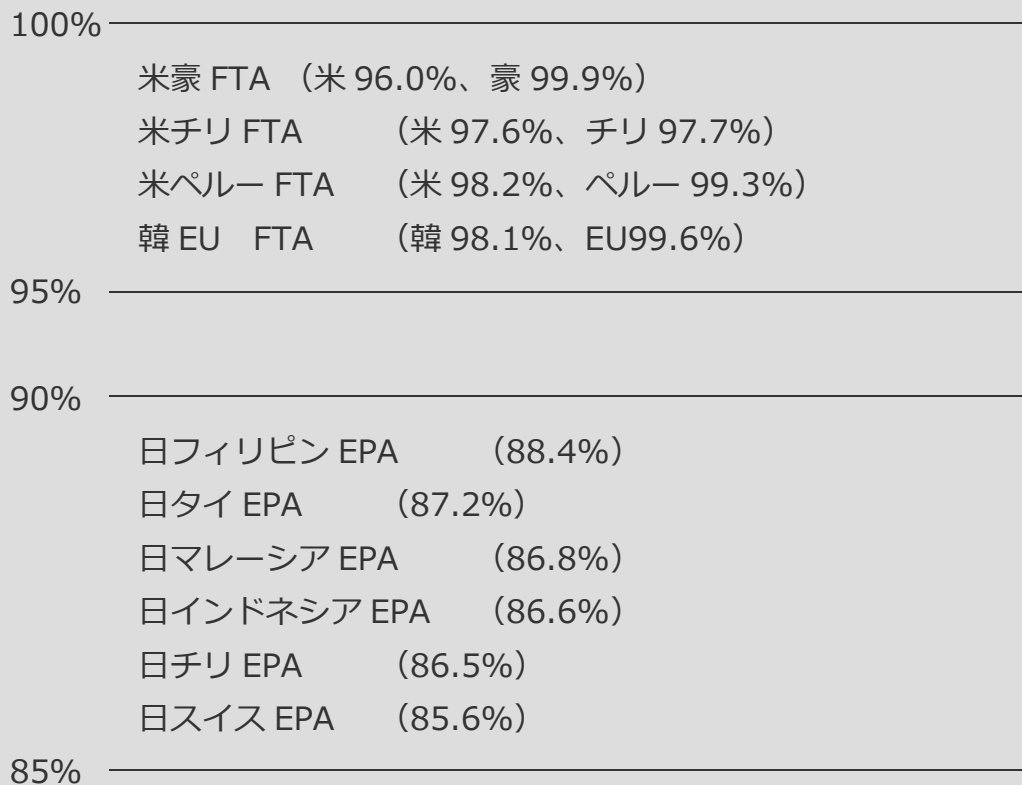
主要国農産物関税率



出所：WTO データ（2010年）

- また、これまでの日本の EPA の自由化率は、他の先進国と比べて低く、自由化が遅れています。

FTA/EPA 自由化率（10 年以内に関税を 0% にする品目数の割合）



出所：国家戦略室 HP

☆「農業の関税がないと心配だけど……」と思ったあなたは次ページへ
農業はどうなるの？：

http://tpp-kokumin.jp/qa/03_02_05.html



TPP Q&A 上級編

Q TPPよりもEPAを進めるべきでは？

A 解答

- TPPよりも日米FTAを進めるべきでは、という意見があります。
- しかし、アメリカとの二国間交渉は、二国間の問題について無制限に取り上げられることになるので、日本としては避けたいところです。
- もちろん、TPPだけではなくその他のEPAについても進めるべきです。どちらかに限定する必要はありません。
- TPPには、アジア太平洋の多くの国々が参加しています。これは、TPPでつくられたルールが、いずれアジア太平洋地域の共通ルールの基礎になるということです。
- アジア太平洋の真ん中に位置する日本に有利なルールをつくるためにも、できるだけ早くTPPに参加した方が良いのです。



TPP Q&A 上級編

Q 中国や韓国とのEPAを優先すべきでは？

A 解答

- 中国や韓国は日本にとって重要な貿易パートナーです。TPP はもちろん、中国や韓国とのEPA も進めていくべきです。
- TPP を進めることが、中国や韓国にとっても刺激になり、日中韓 EPA の交渉を加速することにもなります。